

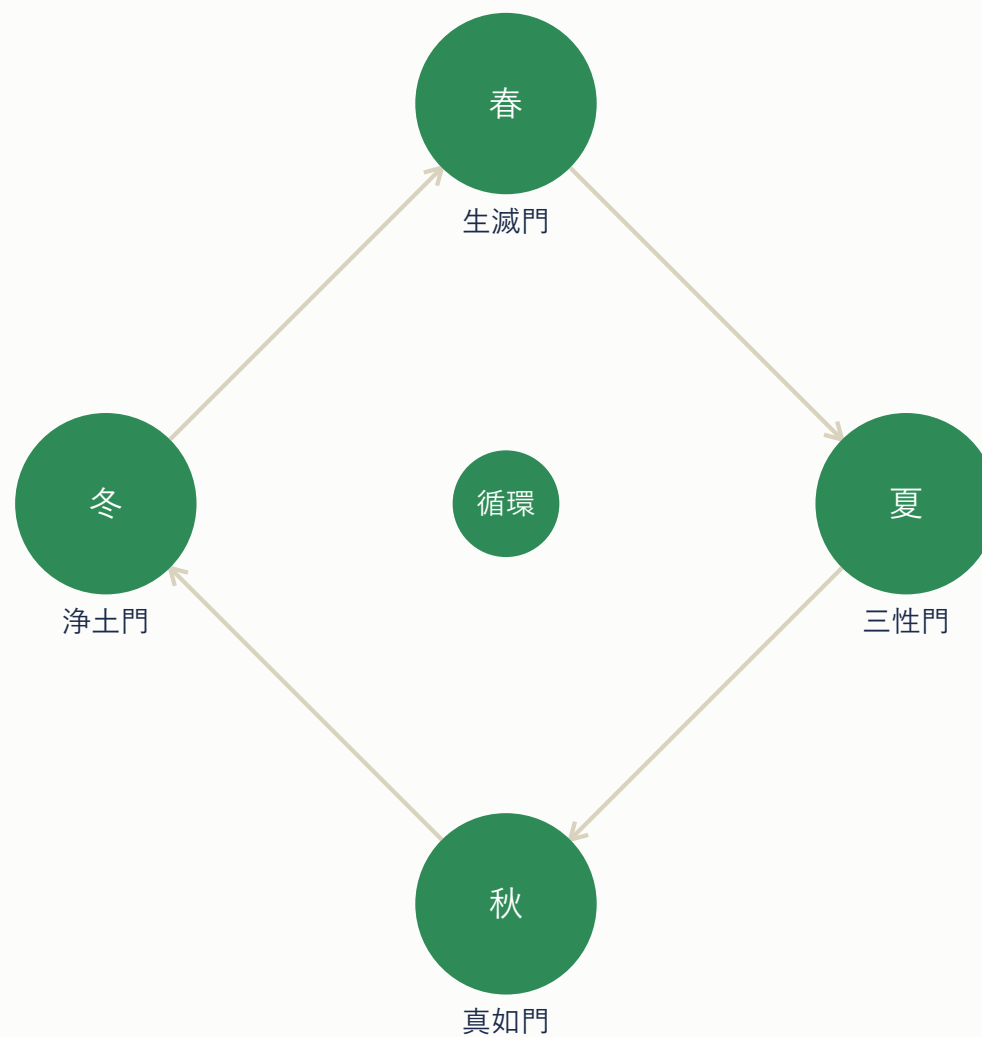
☒☒☒☒☒☒☒ ①

3. 相関的思惟の第二の方法 — 循環（循環）

仏教的ミュトス（Mythos）：Xは-XでもXでもない

AI☒☒ ☒☒☒ ☒☒☒ ☒☒☒ ☒☒ ☒☒☒ ☒☒☒☒ . ☒☒☒

四つの相関的思惟



循環的思惟の定義

- 世界は直線的にのみ動かない
- 成長と衰退・失敗と回復の循環
- 陰陽五行の循環と偶然性の包容

仏教的ミトス

- Xは-XでもXでもない
- 縁起・無常・空の思想
- AIと人間の共進化と共同責任

生命の具体化、形体

- 形はあれど実体なき寂滅の空間
- クオリアと直観＝人間固有性
- 身体化された認知の重要性

成長の第二段階、養生

- 精神が身体を得る存在論的飛躍
- AIが経験できぬ身体性の獲得
- ともに行う養生＝相生連結経済

比較

3. 相関的思惟の第二の方法 — 循環（循環）

区分	人工知能（AI）	人間
認識／思考	・ 抽象的情報処理および論理的推論が可能 ・ データに基づく学習と知識蓄積 ・ パターン認識、問題解決、意思決定の支援 ・ 入力情報に応じて処理方式が異なる	・ クオリア（Qualia）経験、志向性（Intentionality）による意味付与 ・ 自己省察および自我意識 ・ 直観的創造性および想像力
感情／共感	・ 感情の認識およびシミュレーションが可能 ・ 真の感情経験は不在	・ 真の感情経験 ・ 共感および連帯の能力 ・ 関係と愛による存在の形成
存在論的地位	・ 機能的存在、道具的存在 ・ プログラムされた応答、シミュレートされた結果 ・ 「属性」の領域における強み	・ 「現存在（Dasein）」として存在を問う存在 ・ 身体と精神の統合的经验 ・ 「実体」的存在 ・ 不完全性および成長可能性
倫理／責任	・ 倫理的判断が困難 ・ 責任の所在が不明確 ・ 学習データの偏りの反映	・ 道徳的良心および自由意志 ・ 責任ある意思決定 ・ 人間の尊厳の尊重

3. 相関的思惟の第二の方法 — 循環（循環）

区分	仏教（大乘唯識学の観点を含む）	儒教（修身齊家の観点を含む）
身体の本質	・「私は身体ではない」という修行の核心（脱同一化） ・同時に、業を消し輪廻から抜け出す「唯一の道具」としての肯定的側面 ・肉体－心の連続体 ・阿頼耶識の執受（執受）を通じた生命維持	・父母から受けた大切なもの（身体髪膚 受之父母） ・身と心の一致（心正而后、身修） ・知的経験の実践的土台（体験、体得）
身体役割	・霊的進展と解脱の必須の媒介 ・「識（識）」から成る知的な次元、人間と動物を区分	・「修身（修身）」の根本 ・家庭、国家、天下を治める基盤 ・知行一致（知行一致）の実践的証明 ・自己尊重と他者尊重の拡張
AI時代への示唆	・AIの非身体的存在との対比、人間の「経験」と「意識」の重要性の強調 ・ポストヒューマン時代の身体操作をめぐる議論への哲学的基盤の提供	・AIの知的能力と対比される「身体化された知恵」と「実践的倫理」の価値の強調 ・「人間らしさ」を強化する修身齊家の現代的意義の再発見